

感染症情報 11月25日～12月1日

府下小児科197医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	1345例(堺市	83例)
②溶連菌感染症	591例(堺市	62例)
③RSウイルス感染症	130例(堺市	5例)
④水痘	121例(堺市	13例)
⑤伝染性紅斑	108例(堺市	6例)

府下インフルエンザ定点301医療機関(堺市29)から

インフルエンザ 598例(堺市 142例)

感染症報告数は前週比18.8%増の2,609件であった。

報告数の第1位は感染性胃腸炎で、以下、溶連菌感染症、RSウイルス感染症、水痘、伝染性紅斑の順であった。

感染性胃腸炎は府下で前週と比較して24%増、堺市で26%増であった。溶連菌感染症は府下で前週と比較して20%増、堺市で61例→62例はほぼ同数であった。RSウイルス感染症が府下で12%増、堺市は前週と今回とも5例であった。水痘が府下で前週と比較して33%増、堺市で5例→13例であった。伝染性紅斑は府下で9%減、堺市で9例→6例であった

インフルエンザが府下で前週363例→今回598例は65%増で、定点当たり1.21→1.99である。堺市では前週59例→今回142例の141%増で、堺市の定点当たりは2.03→4.90であり、大阪府のブロック別で一番多い。

麻疹が大阪府で1例あり、年始からの累計が149例となった。風疹の報告はなかった。